

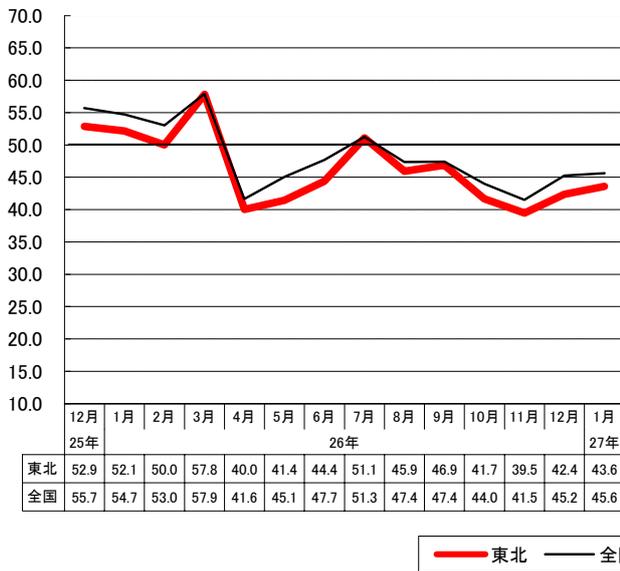
公益財団法人東北活性化研究センター  
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成27年1月東北分  
(新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成27年1月東北分（新潟を含む東北7県）」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

**1. 現状判断（3か月前との比較、方向性）**

現状判断 DI「43.6」（+1.2）は、2か月連続で前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を6か月連続で下回った。

現状判断DIの推移



・家計動向…依然として、全体的に DI は低水準であるが、乗用車販売店、衣料品専門店等を中心に改善がみられる。DI は「42.5」（+1.2）と2か月連続で前月を上回ったものの、基準値50を10か月連続で下回った。

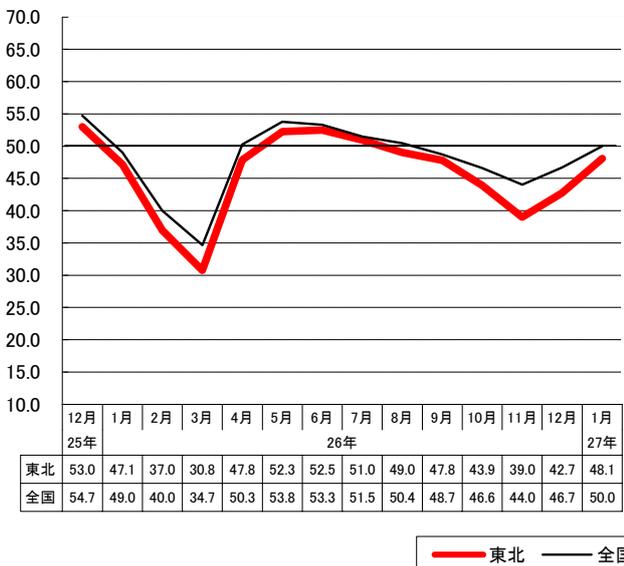
・企業動向…DI の上昇と低下の業種数がほぼ半々となり、全体としての変化はない。受注・販売環境があまり良くない状況のまま推移している。DI は「44.6」（±0.0）と前月から横ばいで、基準値50を4か月連続で下回った。

・雇用動向…DI は「48.9」（+3.4）と2か月連続で前月を上回ったものの、基準値50を5か月連続で下回った。

**2. 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性）**

先行き判断 DI「48.1」（+5.4）は、2か月連続で前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を6か月連続で下回った。

先行き判断DIの推移



・家計動向…燃料価格の低下による消費者マインドの好転や、例年の春先の需要等から、多くの業種でDI が改善している。DI は「47.3」（+5.5）と2か月連続で前月を上回ったものの、基準値50を6か月連続で下回った。

・企業動向…燃料価格の低下による輸送費の低減や、例年の年度末・新年度受注への期待感がみられる。DI は「51.8」（+7.2）と2か月連続で前月を上回り、基準値50を4か月ぶりに上回った。

・雇用動向…DI は「46.6」（+1.1）と、2か月連続で前月を上回ったものの、基準値50を5か月連続で下回った。

## <参 考>

### ■DIの推移※

#### (1) 現状判断(方向性)DI

	25年		26年										27年	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
東北現状	52.9	52.1	50.0	57.8	40.0	41.4	44.4	51.1	45.9	46.9	41.7	39.5	42.4	43.6
家計動向関連	49.1	48.3	45.9	55.4	35.9	37.8	43.5	49.8	44.8	46.2	40.2	38.6	41.3	42.5
企業動向関連	60.4	59.5	59.5	65.5	46.4	44.0	42.9	52.4	47.0	50.0	44.0	40.5	44.6	44.6
雇用関連(参考)	63.6	63.6	59.1	59.1	54.5	60.2	53.4	56.8	51.1	45.5	46.6	43.2	45.5	48.9

#### (2) 先行き判断DI

	25年		26年										27年	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
東北先行き	53.0	47.1	37.0	30.8	47.8	52.3	52.5	51.0	49.0	47.8	43.9	39.0	42.7	48.1
家計動向関連	52.1	45.0	34.8	29.3	48.1	51.7	52.4	50.3	49.7	47.9	43.5	38.1	41.8	47.3
企業動向関連	54.3	51.2	43.5	31.5	44.0	52.4	53.0	52.4	46.4	51.2	45.2	40.5	44.6	51.8
雇用関連(参考)	56.8	53.4	38.6	38.6	53.4	55.7	52.3	52.3	50.0	40.9	44.3	42.0	45.5	46.6

※DI (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

### ■調査の概要

調査期間 平成 27 年 1 月 25 日～31 日

回答者数 210/210 名、回答率 100.0%(全国 1,858/2,050 名、90.6%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-225-1426 FAX : 022-225-0082

## <別 紙>

### ■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

#### （1）現状判断理由

##### ○「良くなっている」

（ショッピングセンター）…正月の初売り、福袋販売に関しては目的買いの客が目立っている。消費に対しての自己管理意識が強くなり、必要なものや欲しいものを見極めている傾向が強い。

##### ○「やや良くなっている」

（乗用車販売店）…消費税増税後の反動減が続いている。一方、軽自動車税改正前の駆け込み需要もみられている。

（住関連専門店）…耐久消費財を扱っているが、客から次の客につながるという好循環があり、今月は来客数が非常に増えている。

（観光名所）…消費税増税による買い控え、正月の天候不良による来客数の減少などがあったが、ここにきてフリー客が若干戻ってきている。また、買物の仕方からも、財布のひもが緩んでいる、もしくは消費税増税に慣れてきている様子であり、販売量はそこそこ戻りつつある。ただし、客のなかにもばらつきがあり、消費を我慢している様子の客も見受けられる。

（電気機械器具製造業）…販売量が増加傾向にあり、給与、福利厚生に好影響を与えつつある。

（広告業協会）…正月初売りでは、流通は前年並みであり自動車販売は好調であった。また、前年から徐々に電力関係がマスコミの出稿を増やしており、各社にとって明るい話題となっている。懸念材料は、住宅関係は展示場への入場者数が減少していることから受注が減少していること、さらに、各地の主力米の販売が落ち込んでいることである。

（職業安定所）…前年同月比で減少が続いていた新規求人数が増加に転じたこともあり、有効求人数も3か月ぶりに前年同月を上回った。また、有効求職者数が引き続き減少していることから、有効求人倍率は過去2番目の高水準となっている。

（民間職業紹介機関）…今までの求人は復興関連、介護福祉関係の業種に偏っていたが、現在は製造業などの求人も増加傾向にある。

##### ○「変わらない」

（商店街）…初売りは比較的天候に恵まれたが、例年と比較して人出は今一つであり、街頭に並ぶ客の列も少なめであった。ただし、客の購買単価が高いのか大型店はなかなか良かったと聞いている。また、各店舗でも良し悪しは極端であるが、やはり購買単価の高さが見受けられる。

（百貨店）…初売りは前年並みで推移したものの、その後のクリアランスセールは伸び悩んでおり、消費者のセールに対する期待感の薄れがうかがえる。また、前年の消費税増税前の駆け込み需要における高額商材の販売実績分がカバーできていない。

（コンビニ）…客単価はほぼ前年並みであるが、来客数の減少が止まらず、前年比が90%台になっている。

（衣料品専門店）…前年に買い控えていた客が初売り商戦で来店しており、売上を伸ばした。しかし、10日以降は来客数が大幅に減少している。

（家電量販店）…前年は消費税増税前の駆け込み需要があったため、売上が前年比に届いていない。

（観光型ホテル）…年末から年始にかけて、客の休みの都合もあり予想よりも若干伸びている。しかし、その後は一進一退している状況であり、平均するとほぼ前年並みとなっている。

（都市型ホテル）…年末年始は休暇が長く売上は例年より増加したが、正月明けからは落ち込み始め、月で見ると売上減となっている。数か月連続で売上の前年比マイナスが続いており、回復も悪化も実感できない状況である。

（旅行代理店）…前年夏までは堅調であった個人旅行の商品が、秋口から変化している。そのため、個人旅行の落ち込みを団体旅行でカバーしてどうにか売上を確保している。

(通信会社) …新規の加入者は少ないものの、解約者数も減少傾向にあるので落ち着いている。年末年始商戦も終わり、状況にあまり変化はない。

(リフォーム業) …受付件数が依然として増えていない。

(農林水産業) …農業をめぐる情勢は依然として厳しいものの、燃料価格の下落が経営を下支えしている。

(建設業) …資材の値上がりが続いているが、客には値引きを要求されており、利益に期待が持てない。

(経営コンサルタント) …ガソリン価格、灯油価格の低下は消費者にとってプラスとなっているが、食品を始め生活必需品全体の価格は上がっているため、実質的なプラスを実感できない。

(新聞社[求人広告]) …相変わらず正社員の求人数が少ない。また、非正規雇用の求人数も横ばいである。

## ○「やや悪くなっている」

(スーパー) …3か月前と比べて、各種商品、特にラーメン、粉類商品が値上がりしており、客の節約志向が強くなり買上点数が減少している。

(パソコン専門店) …年度末が間近であるが、前年度のような商品の動きはなく、一部の業者間の動きのみである。平均して商品の動きは鈍い。

(一般レストラン) …年末年始の後であり、客の財布のひもが非常に固い。また、レストランで食事をする客は年々減少傾向にあり、今年も予想通りではあるが芳しくない状況が続いている。

(美容室) …客のお金の払い方は、景気が良い時は1万円札が多く、景気の悪い時は千円札が多くなる傾向がある。1月は千円札で支払う客がかなり多く、少し消費を抑えている様子が目立った月である。

(住宅販売会社) …前年12月より住宅受注が伸びていない。また、内覧会などにおける来客数も少ない。

(食料品製造業) …東北地区での売上不振が続いており、販売量は前年比98%となっている。

(飲食料品卸売業) …飲食店向け、一般消費者向け出荷共に不調である。新年会の開催が随分と少なかったことが飲食店向けの出荷不調の原因であり、また、一般向けの出荷量も悪い数字であることから、全般的に飲酒を伴う食事には出費を控える傾向があるのではないかと危惧している。

## (2) 先行き判断理由

### ○「良くなる」

(建設業) …年度末までに受注が確定してくる公共工事が重なるため、受注量は増加する。

### ○「やや良くなる」

(商店街) …1月の20日ごろから好天に恵まれている。また、雪関係のイベントも多く人出が増えている。消費税率10%への引上げも先延ばしされているので、今後、冬物処分セール、春物の立ち上がりなど、少しずつ良くなっていくのではないかと期待している。

(高級レストラン) …消費税増税による影響が落ち着いてきている。

(都市型ホテル) …来客数としては、春先へ向かう高揚感とともに個人客の利用が増えるかとみている。また、ガソリン価格の安値も行動範囲を拡充する要因となり、宿泊を伴う県外個人客の動向にも期待出来るのではないかと期待している。

(遊園地) …原油安によって物価上昇が緩和されている。また、春には7年ぶりに新規マシン導入を予定しており、状況が上向くことを期待している。

(電気機械器具製造業) …販売量の増加による給与、福利厚生への好影響が更に継続する見通しである。また、半導体製品の需要が増加傾向にあり、それに対して製品開発が追従できている。

(輸送業) …燃料費が急速に下落しているため、物量が確保できれば良くなる。

(広告代理店) …雇用拡大の影響なのか、求人用の会社案内やリクルート冊子を改訂し、部数を増やすという話が出てきているので、今後期待している。

## ○「変わらない」

(医薬品販売店) …灯油、ガソリン価格の下落などの好条件もあり、この先数か月は特段に景況が悪化する要因は見当たらない。中期的にみれば状況は変わらないとみている。

(百貨店) …消費税増税後からの客の慎重な買い方に変化はなく、現状から改善するような感触はない。

(スーパー) …今後も各種商品の値上げが続くので、客の節約傾向も続くとみている。

(コンビニ) …原油価格が暴落しており、全体的には消費者のマインドはやや回復傾向にあるとみている。

しかし、非常に不確定な要素であり、現状維持となるのではないかとみている。

(衣料品専門店) …買上客数に関しては仕掛け次第で増加が見込めるが、高単価商品の動きに関しては急に良くなるとは考えにくく、結果として変わらない。

(土石製品製造販売) …これから忙しくなる時期であるが、簡単には十分な人員を補充できない状態である。

(人材派遣会社) …首都圏勤務の求人は増加傾向にあるものの、県内勤務の求人は停滞気味である。特に正規雇用募集の動きは慎重である。

(職業安定所) …再建が予定されている水産加工団地の企業からの求人申込が少し遅れる見通しである。また、その外の業種では今のところ大幅な増員の予定はない。

## ○「やや悪くなる」

(家電量販店) …消費税増税前の駆け込み需要があるため、前年比で見るとやや悪くなる。

(食料品製造業) …原材料に輸入品が多いため、円安による値上げが待ったなしで控えている。内部努力で原価を圧縮するのにも限界がある。

(司法書士) …不動産市況が活性化しておらず、前年後半からの受注減が続いている。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上